

東京五輪が閉幕し、パラリンピックが開催されている今、21都道府県に緊急事態宣言が発出されています。自粛疲れの声をテレビなどで耳にしますが、最前線でコロナに立ち向かっておられる医療従事者の方々のことを思えば、感染予防対策への取組を緩めるのは論外ですし、なお一層気持ちを引き締める必要性を強く感じます。

そのような中、今月の校長室だよりは、コロナから離れた（これもテレビで見た）話題にしてみました。

「あなたが今、これだけは手放せないと思うものを一つ挙げてください」への回答で、一番多かったのが「スマホ」。当然と言えば当然でしょうか。今やスマホの無い生活が想像できないほど、私たちの日常に深く浸透しています。ただ、このスマホが世に出てきたのは、それほど遠い昔ではありません。こんなものがあれば、きっと世の中が良くなるし便利になるだろうと考えた人たちが、この数十年の間に創り出してきました。

昔懐かしい固定の（プッシュ式でなくダイヤル式の）黒電話しかなかった頃の不便さは、今はありません。どこからでも電話で声（時に画像まで）が伝えられるし、メールで（絵）文字も送れます。しかし、その便利さと引き換えに、私たちの手の中からこぼれ落ちていくものはないだろうか、最近考えることがよくあります。やっぱり、同じ空間の中で直接目の前にいる人と思いや考えをやり取りすることは、どれだけ面倒なことでもかけがえのない大切な時間に思えます。

平成28年に奈良県高等学校生徒会連絡会の呼びかけによってスマホリデーが始められたのも、時間の過ごし方を再考するためだと思います。時には便利さを脇に置き、面倒で不便だけれど、遠回りでも時間がかかることに時を使ってみるのもいいかもしれませんね。

（8月26日記載）